

番号：140421

国名：アフリカ地域

担当：経済基盤開発部 運輸交通・情報通信第二課

案件名：平成26年度道路・橋梁分野技術協力プロジェクト詳細計画策定調査・中間レビュー調査・終了時評価調査（評価分析）

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務：評価分析
- (2) 格付：3号～4号
- (3) 業務の種類：調査団参团

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間：2014年7月上旬から2014年11月下旬まで
- (2) 業務M/M：国内 2. 00M/M、現地 2. 07M/M、合計 4. 07M/M
- (3) 業務日数：

	準備期間	現地業務期間	整理期間
タンザニア	5日	16日	5日
コンゴ民主共和国	5日	17日	5日
ウガンダ(2案件)	10日	29日	10日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数：1部
- (2) 見積書提出部数：1部
- (3) 提出期限：6月18日(12時まで)
- (4) 提出方法：専用アドレス (e-propo@jica.go.jp)への電子データの提出又は郵送(〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25二番町センタービル)(いずれも提出期限時刻必着)

※2014年2月26日以降の業務実施契約(単独型)公示案件(再公示含む)より、電子媒体による簡易プロポーザルの提出を本格導入しています。

提出方法等詳細についてはJICAホームページ(ホーム>JICAについて>調達情報>お知らせ>「コンサルタント等契約における業務実施契約(単独型)簡易プロポーザルの電子提出本格導入について」(http://www.jica.go.jp/announce/information/20140204_02.html))をご覧ください。なお、JICA本部1階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご留意ください。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等：
 - ①業務実施の基本方針 8点
 - ②業務実施上のバックアップ体制等 2点
 - (2) 業務従事予定者の経験能力等：
 - ①類似業務の経験 45点
 - ②対象国又は同類似地域での業務経験 9点
 - ③語学力 18点
 - ④その他学位、資格等 18点
- (計100点)

類似業務	各種評価調査
対象国/類似地域	ウガンダ、コンゴ民主共和国、タンザニア/全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

(1) 参加資格のない社等：

本調査の対象である技術協力プロジェクトにおいて専門家業務に携わった法人及び個人は本件への参加を認めない。

(2) 必要予防接種：なし

6. 業務の背景

JICAは技術協力プロジェクトの計画策定や事前評価を目的として詳細計画策定調査を、プロジェクト成果の達成状況の確認及び計画の見直しを目的として中間レビュー調査を、プロジェクト成果の達成状況の確認及びフォローアップの必要性の判断を目的として終了時評価調査を実施してきている。

本業務では以下4案件のうち、1案件（ウガンダ）の詳細計画策定調査を実施し、要請内容を踏まえつつ、相手国側関係機関との協議を経て、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）、活動計画（PO）を含む詳細計画を策定し基本合意を得るとともに、プロジェクトの事前評価を行うために必要な情報を収集・分析することを目的とする。また、1案件（タンザニア）の中間レビュー調査を実施し、プロジェクトの目標達成度や成果等を分析するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認し、相手国側関係機関と合意することを目的とする。残りの2案件（ウガンダ、コンゴ民主共和国）については終了時評価調査を実施し、プロジェクト終了を控え、プロジェクト活動の実績、成果を相手国側関係機関と合同で評価・確認するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導き出すことを目的とする。

各案件の背景は以下の通り。

(1) タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査（現地調査予定時期：2014年7月）

タンザニアの道路ネットワークは全長92,300kmであり、そのうち幹線道および州道が34,263km、県道以下の地方道路が58,037kmとなっている（2011/12年）。道路に関する政策立案は建設省（MOW）が担っているが、首相府地方自治庁（PMO-RALG）が地方道路を管轄しており、主に道路基金からの予算給付に基づき実際の運営管理は各地方自治体が行っている。また州行政事務所（RAS）が各県自治体と中央との調整を担っており、県が行う事業の進捗確認・助言を行っている。タンザニアの中期的国家開発計画を定めた Tanzania Development Vision 2025（1999年発表）においては、「適当な量のインフラストラクチャーの整備が、優先される全セクターの開発に資する」とあり、特に道路に関しては地域開発の重要なツールとして位置づけられている。その中で地方道路整備は、タンザニアの国家開発に向けた大きな課題である農業活動の促進や貧困層の生活向上に直接影響を及ぼすものとして重視されているものの、全地方道路の41%がメンテナンス工事の必要とされる「酷い状態（Poor Condition）」となっており、舗装も956kmと僅か1%程度に過ぎず（2012年）、量・質の両面から改善が望まれている。

かかる状況において、MOWは国際労働機関（ILO）等によりその有用性が指摘されている Labor Based Technology（LBT）の道路事業における活用を推進しており、タンザニア政府はLBT研修機能強化に対する支援を我が国に要請した。これを受けてJICAは適正技術研修所（ATTI）をカウンターパート（C/P）機関とし、「LBT研修能力強化プロジェクト（以下「LBTプロジェクト」）」を2006年6月から2011年2月にわたり実施した。

LBTプロジェクトによりATTIのLBT研修機能が強化されたものの、タンザニアにおける地方道路開発・維持管理は依然、十分には実施されていない状況である。その原因としては、財源不足、発注者・受注者の技術・経験不足、機材不足、執行予算の遅延問題等があると考えられており、特に限られた予算における発注者・受注者の現場での業務改善が求められている。また発注者の地方自治体、中央・州の調整機関であるPMO-RALG、RAS、受注者のコントラクターの能力強化と、地方道路開発・維持管理業務プロセスの改善が喫緊の課題となっている。

このような状況をふまえ、JICAはタンザニア政府からの要請に基づき「タンザニア国地方道路開発技術向上プロジェクト詳細計画策定調査」を2011年9月から10月にかけて実施し、同調査

を受け、PMO-RALG を C/P 機関とし「タンザニア国地方道路開発技術向上プロジェクト」(2012 年 2 月～2016 年 3 月)を実施しているところである。これまでの 2 年間では、パイロット県に設定したトドマ州チャムイーノ県とイリンガ州イリンガ県において活動を行ってきた。これからの 2 年間では、パイロット県での知見を他県へ普及させていくとともに、タンザニア側の主体的な実施を重視した活動を行っていく予定である。

(2) コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査(現地調査予定時期:2014 年 8 月)

コンゴ民主共和国(コンゴ民)は、長年の内戦の影響による政府機能の不全、経済活動の停滞や人口の一極集中化、失業者の増大や道路、水道、通信等の未整備による社会の不安定化が深刻な問題となっている。このような状況に対し、コンゴ民主共和国は重点 5 分野(インフラ整備、保健・教育、水・電気、住居の確保、雇用)の中で、インフラ整備を最優先課題として挙げている。

マタディ橋は、我が国の有償資金協力「バナナマタディ間輸送力増強事業」(1974 年～1983 年)によって建設された橋梁である。マタディ市は、同国最大の港湾であるマタディ港を有し、外湾であるボマ・バナナと、首都をつなぐ幹線に位置する陸運の要衝である。マタディ橋はコンゴ川対岸を結ぶ唯一の架け橋として物流の活性化に寄与し、経済・社会面において重要な役割を果たしてきた。

一方、建設後 28 年たった現在、橋梁維持管理の抜本的な点検、補修計画策定が必要となってきた。マタディ橋の維持管理は、キンシャサ・バナナ交通公団(OEBK)により実施されており、マタディ橋建設時に移転された技術・マニュアルを用い、維持管理を行ってきた。しかしながら、コンゴ民では吊橋が他に存在しないため、国全体として十分な技術が蓄えられておらず、また建設当時に技術を得た技術者の多くは、すでに引退等をしており、若年層の育成が急務である。

このような状況をふまえ、JICA は 2010 年 6 月に「橋梁維持管理情報収集・確認調査」、2011 年 6 月にコンゴ民政府からの要請に基づき「マタディ橋維持管理計画策定調査」を行い、OEBK のマタディ橋に係る維持管理の現状を把握し、我が国の援助の可能性についてコンゴ民政府と協議を行ってきた。これらの調査を受け、上記の OEBK のマタディ橋に係る維持管理能力が強化されることを目的に、OEBK を C/P 機関とし「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」(2012 年 3 月～2015 年 3 月)を実施しているところである。これまで、本プロジェクトでは短期専門家派遣や本邦研修による技術指導、マタディ橋の健全性を調査するための主ケーブル開放調査、橋梁点検機材の調達を実施してきた。本年度では、引き続き短期専門家派遣と本邦研修による技術指導を実施すると同時に、調達した橋梁点検機材の据え付け支援を 6 月から実施する予定である。

(3) ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査(現地調査予定時期:2014 年 9 月)

ウガンダの運輸交通システムは、道路、鉄道、航空、水上輸送により構成されており、道路は貨物輸送の 96.5%、旅客輸送の 95%を占めている。ウガンダの道路網は国道(National Road)、県道(District Road)、都市道(Urban Road)、村落道(Community Access Road)から構成されているが、国道を除く地方道路においては、地理情報と連動し基礎的な道路情報(道路名、道路区分、距離、位置、状況等)を含む地方道路データベースが十分に整備されていないことが道路整備・計画・維持管理にあたっての問題となっている。

また、ウガンダ国内の地方道路の整備・計画・維持管理を地方自治体と共に担当する土木事業・運輸省(MoWT)にとっても、地方道路データベースが十分に整備されていないため、ウガンダ国政府が 2008 年に道路維持管理のためのウガンダ道路基金(URF)を設立したものの、道路情報等を記入する必要がある予算申請書を適切に作成できず、効率的な予算配分が出来ていないのが現状であり、地方道路データベースの構築と維持管理体制の構築は、ウガンダの運輸・交通セクターにとって急務となっている。

このような状況をふまえ、JICA は「地方道路地理情報システムデータベース整備および運用体制構築プロジェクト詳細計画策定調査」を 2011 年 11 月に実施し、同調査を受け、MoWT を C/P 機関とし「地方道路地理情報システムデータベース整備および運用体制構築プロジェクト」(2012 年 4 月～2015 年 3 月)を実施しているところである。第 1 年次において、地方道路のデジタルベ

ースマップを作成し、また、地方自治体職員を対象とした道路インベントリー調査に係る本邦研修も実施した。2014年3月から実施されている第2年次においては、C/P主導による道路インベントリーデータの収集を実施中であり、今後、収集データとデジタルベースマップを統合し、地方道路データベースを構築する予定である。

(4) ウガンダ国「カンパラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査（現地調査 予定時期：2014年9月）

内陸国であるウガンダ国は人口34,759千人（2013）、1人当たりGNI460USドル（2009）である。鉄道網が機能していないため貨物及び旅客運搬の92%以上が陸上運輸（道路）によって担われており、経済開発上、道路が非常に重要な位置を占めている。ウガンダにおける自動二輪車を含む車輛登録台数は1997年の約15万台から2008年の約47万台へと年率10.9%のペースで増加している。カンパラ市内の幹線道路の総延長は619kmであるが、ほとんどが2車線道路（片側1車線）であり4車線以上の道路の総延長は25kmに過ぎず、既存道路網の交通容量は不足している。加えて、カンパラの都市構造は、市中心部に行政施設、商業地域等が一極集中したものであり、郊外から市中心部に流入する通勤・通学交通による朝夕の交通ピーク時の渋滞はもとより、市内中心部においては終日渋滞が発生している道路区間も少なくない。

2009年にウガンダ政府が策定したカンパラ都市交通計画（目標年次2018年）においては、主要幹線道路の拡幅および高規格化、交差点改良等からなる道路網改善をコンポーネントの一つに位置付けており、世界銀行等の資金協力により合計60超の交差点改良事業の準備を進めている。また、同計画では道路網改善とともに公共交通志向型開発（Transit Oriented Development: TOD）を推進するとしており、この一環として、世界銀行等の資金協力によるバス・ラピッド・トランジット（以下、BRT）のフィージビリティスタディ（以下、F/S）及び詳細設計調査が進行中である。

JICAも2010年に実施した「大カンパラ都市圏道路網及び交通改善計画調査」において、市中心部における幹線道路の拡幅と混雑の激しい交差点の立体化を優先事業として提案し、プレF/Sを実施した。これを受け、JICAは無償資金協力事業「大カンパラ都市圏道路網改善事業」を2012年に採択し、現在協力準備調査の実施中である。このように、カンパラ市内の交通渋滞緩和のために、交差点改良をはじめとする多くの事業が準備されている状況にある。

このような状況の中、カンパラ首都庁は、今後実施される交差点の改良事業及び信号の設置を見据え、カンパラ首都庁としての「交差点改良の設計指針」及び「交通信号の設計要領・設置基準」等を整備すべく、2013年7月にウガンダ政府より本プロジェクトが要請され、今般、カンパラ首都庁をC/P機関とし詳細計画策定調査を実施することとなった。

本詳細計画策定調査にて先方政府と協議の上、協力コンポーネントの策定を行う。

7. 業務の内容

本業務従事者は、本業務の対象の4件の調査において、評価分析業務を担当する。なお、JICA事業評価における評価基準・手続きについては監督職員より情報提供を行う。

具体的担当事項は次のとおりとする。

(1) タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査（現地調査 予定時期：2014年7月）

1) 国内準備期間（2014年7月上旬～7月中旬）

- ①既存の文献・報告書等（事業進捗報告書、業務完了報告書、合同調整委員会議事録、専門家報告書、活動実績資料等）をレビューし、プロジェクトの実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等）、実施プロセスを整理、分析する。
- ②既存のPDMに基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価5項目ごとの調査項目とデータ収集方法、調査方法を検討し、監督職員とも協議の上、評価グリッド（案）（和文・英文）を作成する。また、現地で入手、検証すべき情報を整理する。
- ③評価グリッド（案）に基づき、プロジェクト関係者（プロジェクト専門家、C/P機関、その他タンザニア側関係機関、他ドナー等）に対する質問票（案）（英文）を作成する。

④対処方針会議等に参加する。

2) 現地派遣期間 (2014年7月中旬～7月下旬)

- ①JICA タンザニア事務所等との打合せに参加する。
- ②プロジェクト関係者に対して、本中間レビューの評価手法について説明を行う。
- ③タンザニア側 C/P と協議した評価グリッドに基づき、事前に配布した質問票を回収、整理するとともにプロジェクト関係者に対するヒアリング等を行い、プロジェクト実績(投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等)、実施プロセス等に関する情報、データの収集、整理を行う。
- ④収集した情報、データを分析し、プロジェクト実績の貢献、阻害要因を抽出する。
- ⑤国内準備並びに上記③及び④で得られた結果をもとに、他の調査団員及びタンザニア側 C/P 等とともに評価5項目の観点から評価を行い、合同中間レビュー報告書(案)(英文)の取りまとめを行う。
- ⑥調査結果や他団員及びタンザニア側 C/P 等からのコメント等を踏まえた上で、PDM 及び PO の修正案(和文・英文)の取りまとめに協力する。
- ⑦合同中間レビュー報告書(案)に関する協議に参加し、協議を踏まえて同案を修正し、最終版を作成する。
- ⑧協議議事録(M/M)(英文)の作成に協力する。
- ⑨担当分野に係る現地調査結果を JICA タンザニア事務所等に報告する。

3) 帰国後整理期間 (2014年7月下旬～8月上旬)

- ①中間レビュー調査結果要約表(案)(和文・英文)の作成に協力する。
- ②帰国報告会に出席し、担当分野に係る報告を行う。
- ③中間レビュー調査報告書(和文)について、担当分野のドラフトを作成する。

(2) コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査(現地調査予定時期:2014年8月)

1) 国内準備期間 (2014年8月上旬)

- ①既存の文献、報告書等(事業進捗報告書、業務完了報告書、合同調整委員会議事録、専門家報告書、活動実績資料等)をレビューし、プロジェクトの実績(投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等)、実施プロセスを整理、分析する。
- ②既存の PDM に基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価5項目ごとの調査項目とデータ収集方法、調査方法等を検討し、監督職員とも協議の上、評価グリッド(案)(和文・英文)を作成する。また、現地で入手、検証すべき情報を整理する。
- ③評価グリッド(案)に基づき、プロジェクト関係者(プロジェクト専門家、C/P 機関、その他コンゴ民側関係機関、他ドナー等)に対する質問票(英文)を作成する。
- ④対処方針会議等に参加する。

2) 現地派遣期間 (2014年8月上旬～8月下旬)

- ①JICA コンゴ民事務所等との打合せに参加する。
- ②プロジェクト関係者に対して、本終了時評価の評価手法について説明を行う。
- ③コンゴ民側 C/P と協議した評価グリッドに基づき、事前に配布した質問票を回収、整理するとともにプロジェクト関係者に対するヒアリング等を行い、プロジェクト実績(投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等)、実施プロセス等に関する情報、データの収集、整理を行う。
- ④収集した情報、データを分析し、プロジェクト実績の貢献、阻害要因を抽出する。
- ⑤国内準備並びに上記③及び④で得られた結果をもとに、他の調査団員及びコンゴ民側 C/P 等とともに評価5項目の観点から評価を行い、合同評価報告書(案)(英文)の取りまとめを行う。

- ⑥調査結果や他団員及びコンゴ民側 C/P 等からのコメント等を踏まえた上で、PDM 及び P0 の修正案（和文・英文）の取りまとめに協力する。
- ⑦合同評価報告書（案）に関する協議に参加し、協議を踏まえて同案を修正し、最終版を作成する。
- ⑧協議議事録（M/M）（英文）の作成に協力する。
- ⑨担当分野に係る現地調査結果を JICA コンゴ民事務所等に報告する。

3) 帰国後整理期間（2014 年 8 月下旬～9 月上旬）

- ①評価調査結果要約表（案）（和文・英文）を作成する。
- ②帰国報告会に出席し、担当分野に係る報告を行う。
- ③終了時評価調査報告書（和文）について、担当分野のドラフトを作成する。

(3) ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査（現地調査予定時期：2014 年 9 月～10 月）

1) 国内準備期間（2014 年 8 月下旬～9 月中旬）

- ①既存の文献、報告書等（事業進捗報告書、業務完了報告書、合同調整委員会議事録、専門家報告書、活動実績資料等）をレビューし、プロジェクトの実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等）、実施プロセスを整理、分析する。
- ②既存の PDM に基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価 5 項目ごとの調査項目とデータ収集方法、調査方法を検討し、監督職員とも協議の上、評価グリッド（案）（和文・英文）を作成する。また、現地で入手、検証すべき情報を整理する。
- ③評価グリッド（案）に基づき、プロジェクト関係者（プロジェクト専門家、C/P 機関、その他ウガンダ側関係機関、他ドナー等）に対する質問票（案）（英文）を作成する。
- ④対処方針会議等に参加する。

2) 現地派遣期間（2014 年 9 月中旬～10 月中旬）

- ①JICA ウガンダ事務所等との打合せに参加する。
- ②プロジェクト関係者に対して、本終了時評価の評価手法について説明を行う。
- ③ウガンダ側 C/P と協議した評価グリッドに基づき、事前に配布した質問票を回収、整理するとともにプロジェクト関係者に対するヒアリング等を行い、プロジェクト実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等）、実施プロセス等に関する情報、データの収集、整理を行う。
- ④収集した情報、データを分析し、プロジェクト実績の貢献、阻害要因を抽出する。
- ⑤国内準備並びに上記③及び④で得られた結果をもとに、他の調査団員及びウガンダ側 C/P 等とともに評価 5 項目の観点から評価を行い、合同評価報告書（案）（英文）の取りまとめを行う。
- ⑥調査結果や他団員及びウガンダ側 C/P 等からのコメント等を踏まえた上で、PDM 及び P0 の修正案（和文・英文）の取りまとめに協力する。
- ⑦合同評価報告書（案）に関する協議に参加し、協議を踏まえて同案を修正し、最終版を作成する。
- ⑧協議議事録（M/M）（英文）の作成に協力する。
- ⑨担当分野に係る現地調査結果を JICA ウガンダ事務所等に報告する。

3) 帰国後整理期間（2014 年 10 月中旬～11 月中旬）

- ①評価調査結果要約表（案）（和文・英文）の作成に協力する。
- ②帰国報告会に出席し、担当分野に係る報告を行う。
- ③終了時評価調査報告書（和文）について、担当分野のドラフトを作成する。

(4) ウガンダ国「カンパラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査（現地調査予定時期：2014 年 9 月～10 月）

- 1) 国内準備期間（2014年8月下旬～9月上旬）
 - ①要請の背景・内容を把握する（関連資料・情報の収集・分析）。
 - ②担当分野に関する調査計画・方針案を検討する。
 - ③現地調査で収集すべき情報を検討する。
 - ④PDM（案）（和文・英文）、PO（案）（和文・英文）及び事業事前評価表（案）（和文・英文）の担当分野関連部分を作成する。
 - ⑤C/P機関、その他ウガンダ側関係機関、他ドナー等に対する質問票（案）（英文）の担当分野関連部分を作成する。
 - ⑥他ドナーが実施する類似プロジェクトに関する資料・情報の収集、分析を行う。
 - ⑦調査団打合せ、対処方針会議等に参加する。
- 2) 現地派遣期間（2014年9月中旬～10月中旬）
 - ①JICAウガンダ事務所等との打合せに参加する。
 - ②C/P機関、その他ウガンダ側関係機関等との協議及び現地調査に参加する。
 - ③担当分野に関する以下の情報・資料の収集、現状の把握を行う。
 - ・C/P機関をはじめとした交差点改良に係る各関係機関（交通警察、Uganda Revenue Authority等）の権限・役割、意思決定プロセス
 - ・上述各関係機関の組織体制、保有機材、運用状況
 - ・C/P機関の交差点改良に関する能力の現状及び課題
 - ・既存の交通管制システム（信号機、交通管制センター含む）の稼働状況、仕様等
 - ・カンパラ市内の交差点改良計画における他ドナーや国際機関の協力実績、及び予定
 - ④PDM（案）（和文・英文）、PO（案）（和文・英文）の作成に協力する。
 - ⑤ウガンダ側C/Pとの協議で合意された内容について、R/D（案）（英文）及びM/M（案）（英文）の取りまとめに協力する。
 - ⑥評価5項目の観点からプロジェクトを分析する。
 - ⑦現地調査結果のJICAウガンダ事務所への報告に参加する。
- 3) 帰国後整理期間（2014年10月中旬～11月中旬）
 - ①事業事前評価表（案）（和文・英文）の作成に協力する。
 - ②収集資料の整理・分析（収集資料リスト作成、質問票回答の取りまとめ等）を行う。
 - ③帰国後打合せ、帰国報告会等へ出席し、担当分野に係る調査報告を行う。
 - ④担当分野の調査結果を取りまとめ、詳細計画策定調査報告書（案）（和文）の作成に協力する。

8. 成果品等

業務の実施過程で作成、提出する報告書等は以下のとおり。

なお、本契約における成果品は（1）～（3）のすべてとする。

- (1) 評価報告書（英文）（ウガンダ(終了時評価調査のみ)、コンゴ民）
中間レビュー報告書（英文）（タンザニア）
- (2) 担当分野に係る詳細計画策定調査報告書（案）（和文）（ウガンダ）
担当分野に係る中間レビュー調査報告書（案）（和文）（タンザニア）
担当分野に係る終了時評価調査報告書（案）（和文）（ウガンダ、コンゴ民）
- (3) 事業事前評価表（案）（和文・英文）（ウガンダ(詳細計画策定調査のみ)）
評価調査結果要約表（案）（和文・英文）（ウガンダ(終了時評価調査のみ)、コンゴ民、タンザニア）

上記（1）～（3）については、電子データをもって提出することとする。また、これらの成果品は全調査が完了した後まとめて提出するのではなく、各調査が完了するたびに提出とする予定である。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約見積書作成ガイドライン」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。

留意点は以下のとおり。

(1) 航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含みます（見積を計上して下さい）。

標準経路(タンザニア)：	日本⇒ドバイ/ドーハ⇒ダルエスサラーム⇒ドバイ/ドーハ⇒日本
標準経路(コンゴ民)：	日本⇒パリ⇒キンシャサ⇒パリ⇒日本
標準経路(ウガンダ)：	日本⇒ドバイ/ドーハ⇒エンテベ⇒ドバイ/ドーハ⇒日本

10. 特記事項

(1) 業務日程／執務環境

1) 現地業務日程

本業務従事者の現地調査期間は未定ですが、以下の通り留意事項があります。

- ① タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査
7月第4週(7月21日の週)にJCCが開催される予定ですので、この週は現地に滞在することになります。
- ② コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査
特になし
- ③ ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査
- ④ ウガンダ国「カンバラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査
ウガンダにおける2調査は、1回の渡航で実施する予定です。
本業務従事者は、各国の調査においてJICA職員の調査団員に約1週間先行して現地調査の開始を予定しています。想定される業務従事者の工程概略は以下の通りです。

案件名	7月	8月	9月	10月	11月
タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査					
コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査					
ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備及び運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査					
ウガンダ国「カンバラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査					

□：国内作業
■：現地作業

2) 現地での業務体制

本業務に係る調査団構成は、以下のとおりです。

- ① タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査
 - ア) 総括 (JICA)
 - イ) 協力企画 (JICA)
 - ウ) 評価分析 (本業務従事者)
- ② コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査
 - ア) 総括 (JICA)
 - イ) 協力企画 (JICA)
 - ウ) 評価分析 (本業務従事者)
 - エ) 通訳
- ③ ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査
 - ア) 総括 (JICA)
 - イ) 協力企画 (JICA)
 - ウ) 評価分析 (本業務従事者)
- ④ ウガンダ国「カンバラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査
 - ア) 総括 (JICA)
 - イ) 協力企画 (JICA)

- ウ) 交差点改良計画 (コンサルタント)
- エ) 評価分析 (本業務従事者)

3) 便宜供与内容

JICAウガンダ事務所、コンゴ民事務所、タンザニア事務所及びプロジェクトチームによる便宜供与事項は以下のとおりです。

- ア) 空港送迎
あり
- イ) 宿舎手配
あり
- ウ) 車両借上げ
全行程に対する移動車両の提供 (機構職員等の調査期間については、職員等と同乗することとなります。)
- エ) 通訳備上
なし
- オ) 現地日程のアレンジ
現地ヒアリング調査のスケジュールアレンジ、C/Pの同行

(2) 参考資料

1) 本業務に関する以下の資料を当機構経済基盤開発部運輸交通第二課 (TEL:03-5226-8152) にて配布します。

- ①タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査
 - ・タンザニア国地方道路開発技術向上プロジェクト業務進捗報告書 (第1年次契約期間)
 - ・タンザニア国地方道路開発技術向上プロジェクト PDM (最新版)
- ②コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査
 - ・コンゴ民主共和国マタディ橋維持管理計画策定調査報告書 (2011年)
 - ・コンゴ民主共和国マタディ橋維持管理計画策定支援報告書 (2011年)
 - ・コンゴ民主共和国マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト 橋梁点検車に係る調達計画調査 現地調査結果概要 (2012年)
- ③ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査
 - ・ウガンダ共和国地方道路地理情報システムデータベース整備および運用体制構築プロジェクト PDM (最新版)
- ④ウガンダ国「カンパラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査
 - ・案件要請書

2) 本業務に関する以下の資料が当機構図書館のウェブサイト (<http://libopac.jica.go.jp/>) で公開されています。

- ①タンザニア国「地方道路開発技術向上プロジェクト」中間レビュー調査
 - ・タンザニア国地方道路開発技術向上プロジェクト詳細計画策定調査報告書
- ②コンゴ民主共和国「マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト」終了時評価調査
 - ・コンゴ民主共和国マタディ橋維持管理能力向上プロジェクト ケーブル開放調査報告書 (2012年)
- ③ウガンダ国「地方道路地理情報データベース整備および運用体制構築プロジェクト」終了時評価調査
 - ・ウガンダ共和国地方道路地理情報システムデータベース整備および運用体制構築プロジェクト詳細計画策定調査報告書 (2011年)
- ④ウガンダ国「カンパラ市交差点管理能力向上プロジェクト」詳細計画策定調査
 - ・ウガンダ共和国大カンパラ都市圏道路網及び交通改善計画調査事前調査報告書 (2007)

年)

- ・ウガンダ共和国大カンパラ都市圏道路網および交通改善計画調査報告書 和文要約 (2010年)
- ・ウガンダ共和国大カンパラ都市圏道路網および交通改善計画調査報告書 信号機操作および管理マニュアル 和文要約 (201年)

(3) その他

業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。

以上